

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年5月18日

【評価実施概要】

事業所番号	4077900142
法人名	社会福祉法人 豊生会
事業所名	グループホーム幸
所在地 (電話番号)	福岡県三潴郡大木町大字侍島861 (電話) 0944-33-1685
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年4月4日

【情報提供票より】(平成21年3月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤 5人, 非常勤 13人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	有りの場合 償却の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成21年3月13日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 85 歳	最低	73 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野口医院、のだ歯科医院、横山外科(夜間対応)
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県外にも複数の福祉施設を併せ持つ社会福祉法人を母体とする事業所である。田んぼや畑が広がる住宅地に立地し、緑の生垣に囲まれた平屋造りの建物は清潔で明るい。中庭には東屋があり、季節の花や外の景色が眺められ、利用者の憩いの場となっている。各居室はホールに面し、広いホールは大きな窓から明るい光が差し込んでゆったり開放的である。利用者は明るく、笑顔や和やかな会話が絶えない。職員は家族のように利用者としており、一緒に笑ったり、楽しんだり、居心地よく安心して過せるよう支援している。火災などに備えて出入口は全ていつも開放し、見守りの行き届いた鍵の必要のないケアを実践している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を受けて、運営推進会議で報告を行って意見を聞き、職員全員で協議してできることから改善を行っている。未達成の課題もあるが、毎月ホーム便りを発行するなどの改善が見られる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が自己評価や外部評価について職員会議で説明を行い、職員が各項目を分担して自己評価に取り組んだ。日頃のケアの振り返りや気づきの機会となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町役場の保健師、地域住民、家族代表、ホーム職員などの参加により、2ヶ月ごとに定期的に開催している。会議にはホームの状況や行事の取り組み、外部評価の結果などを報告して意見をいただいている。更に自治会長や民生委員、老人会などへ出席を要請し、地域の情報や協力が得られるよう積極的な関わりが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	毎月ホーム便りを発行し、家族の訪問時に利用者の日頃の様子を伝えて話を聞き、家族会、運営推進会議などでも意見を聞いている。意見や要望はそのつど家族と話し合い、職員会議で検討して対策を考え、運営やサービス向上に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の方々から野菜をいただいたり、踊りや太鼓、フラダンスなどのボランティアの来訪がある。利用者と職員は買い物や季節ごとのドライブや花見で外出しているが、地域との関わりは少ない。地元の行事や地域活動へ参加し、地域の人々と交流を深めることが望まれる。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの開設当初から、「地域とのふれあいを大切に、いつも笑っていられる居心地の良い家庭で、その人らしく生き活きと安心して生活できるように支援する」という、関連グループホーム共通の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホールの見やすい位置に大きく掲げられており、職員は朝礼の後に唱和して意識を深め、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方から野菜をいただいたり、踊りや太鼓、フラダンスなどのボランティアの来訪がある。利用者と共に道の駅や朝市へ買い物などに出かけているが、地元の行事や地域活動に参加し地域住民と交流する機会は少ない。	○	運営推進会議を活用して自治会や老人会へ呼びかけを行い、地域の情報を収集して地域活動や行事に参加し、交流を深める取り組みが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価や外部評価の説明を行い、職員が分担して自己評価に取り組んだ。前回の評価は職員や運営推進会議に報告し、職員会議で検討を行った。便りの発行等、できることから改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町役場の保健師、地域住民、家族代表、ホームの職員の参加により、2ヶ月に1度定期的開催されている。ホームの状況や取り組みの報告、外部評価の報告等を行い、意見をいただいている。しかし、自治会長、民生委員、老人会長などの地域の有志の参加がなく、地域の情報や協力が得にくい状況である。	○	地域の役員の方々にも参加をお願いして、広く多方面からの意見や情報をいただき、ホームの運営やサービス向上に活かす取り組みを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者や職員は町役場や介護保険広域連合の支部へ出かけ、相談や情報交換を行っている。利用者の希望で介護支援専門員と一緒に町役場へ相談に行ったこともある。また、包括支援センターへ運営推進会議の参加を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居時に家族に説明を行っているが、現在利用者の中に制度を必要とする人はいない。一部の職員は制度について理解をしているが、他の職員の勉強会や家族への啓発は今後の課題である。	○	職員会議等で制度についての学習を行うと共に、パンフレット等を準備して、必要な時にいつでも情報提供できるように取り組むことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホームだよりを発行して家族へ郵送し、行事や利用者の日頃の様子を写真入りで伝えている。また家族の訪問時に職員の異動や日常の状況を報告し、緊急時は電話で連絡を行っている。預かり金は利用者毎に領収書やレシートを添えて記録し、家族訪問時に報告、確認印をもらうしくみがある。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員以外の第三者の相談受付窓口を設け、年2回の家族会や運営推進会議、家族の訪問時に家族から意見を聞き取っている。意見や要望はそのつど家族等と話し合い、職員会議で検討し対策を考えている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の資質向上と緊急時の対応に備えるため、年1回ユニット間の職員異動を行っている。異動は最小限にとどめ、新しい職員の採用時は馴染みの職員と共にケアに関わり、見守り指導を行うしくみがある。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に当たっては年齢や性別などの制限はなく、本人の意欲や熱意を優先して採用している。職員の年齢も20代から60代と幅広く、男性職員も3名いる。勤務時間や休みの希望を取り入れて勤務シフトを組み、子育てや習い事、資格取得等の支援を行い、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表や管理者による研修は行っていないが、日常のケアの中で互いに注意し合ったり、その都度管理者が注意をしている。また、定期的に職員会議で利用者の尊厳を守るための自己チェックを行い、利用者に対する接遇の振り返りを行っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修情報の提示を行い、希望があれば研修参加や資格取得のための勤務調整をして支援するしくみがある。しかし、職員育成のための内外研修の計画や外部研修の情報を共有するしくみがなく、これからの課題である。	○	計画をたて資質向上のための職員研修を行うと共に、各種研修会の情報収集と提示を行い、研修参加後のレポート提出・報告等により、職員全員で情報を共有するしくみ作りが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域同業者の連絡会議に管理者等が参加し、勉強会や情報交換を行っている。管理者は職員会議で参加内容を報告している。職員は友人・知人を通じての個人的な交流はあるものの、他ホームへの相互訪問や情報交換等の取り組みは計画の段階である。	○	地域同業者のネットワークを活用し、管理者だけでなく職員レベルでの勉強会や相互訪問、情報交換等により、サービス向上に取り組むことを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者や職員は入居前に自宅や病院を訪問し、本人や家族から入居後の生活に馴染めるよう情報を聞いている。また家族と共にホーム見学に来てもらい、他の利用者や職員と顔なじみになり、安心して入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は自分の家族という立場で利用者と接し、一緒に笑ったり喜んだりしている。料理の味付けを教わったり、昔の言葉や季節の行事、習慣等知らない話を話してもらっている。また、職員は利用者の感謝の言葉やねぎらいに癒されたり、仕事のやり甲斐を感じている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者や介護支援専門員は入居前に利用者や家族と面談し、十分に話を聞いて利用者の望む暮らしを把握した上で契約している。職員は日々の暮らしの中で傍らに居て本人の意向を汲み取っている。また意思表示の困難な場合は動作や表情から意向を汲み取り、職員全員で本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に作成した介護計画は、利用者が新しい環境に馴染るまで短い期間で評価を行い、状況に合わせて本人や家族等関係者と話し合い介護計画を変更している。職員は各利用者の心身の状態に合わせて随時提案を行い、利用者にとってより良い介護計画になるよう協議検討している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は個人記録や業務日誌などを参考に毎月モニタリングを行い、3ヶ月ごとに評価し介護計画をチェックしている。6ヶ月毎に定期的な見直しを行っているが、利用者の心身の状態に変化が生じた時は、その都度本人や家族と話し合って現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が通院に同行できない時は、通院介助を行っている。状態変化で専門医を受診する場合は、家族に代わり予約を行い、家族と共に通院に同行して日常生活の様子を伝えている。また、利用者や家族の希望で行きつけの美容院まで送迎を行うなど、柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居時に本人や家族へ協力医院の説明を行い、決めてもらっている。必要時に往診可能な協力医院にかかりつけ医を変更する利用者もいるが、既往症によっては他の受診科と併用する利用者もいる。本人や家族が十分に検討して、かかりつけ医を決定している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在職員の中に看護師がおらず、利用者の急変事は主治医や協力医院と協議し入院の対応をしている。今後は協力医院の看護師と24時間いつでも連絡が取れるよう体系化していく方針であり、徐々に重度化への対応に取り組んでいる。	○	一部の家族よりホームで最後まで看取って欲しいという希望が出ている事実を踏まえ、ホームとしての明確な方針の確立が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者への対応や言葉かけには十分注意しており、さりげなく丁寧な声かけを行っている。個人情報に関する記録物は鍵のかかる戸棚に保管されており、取り扱いには細心の注意がなされている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決まっているが、本人の体調やペースを大切にして支援している。天気の良い日は戸外の東屋で食事を楽しんだり散歩をしたり、ゆっくりと一日の時間が流れている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は馴染みの湯のみを自宅から持参し、愛用している。利用者は職員と共に食材の皮むきや下拵えをしたり、食器を洗ったり、持っている力を十分発揮している。食事の介助が必要な利用者には負担のないように介助を行い、職員と利用者は和やかな雰囲気の中で食事を摂っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前と午後と入浴時間を広く取り、好きな時に入浴できるように配慮している。利用者の状態に応じて職員が2人で介助することもある。利用者が週に2回以上入浴することを目標に、入浴の頻度が少ない利用者にはさりげなく入浴の促しを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は持っている力を発揮して、食材の皮むきや下拵え、食後の食器洗いなどを手伝っている。ホームの周囲に小さな菜園を作り、職員と共に種まきや草取り、収穫を行い、野菜の成長をととても楽しみにしている。レクリエーションには利用者の興味のある物を取り入れ、楽しめるように支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋外に東屋があり、天気の良いときは外気浴を行う。周囲には田んぼや畑が多く、職員は外出の希望に応じて、のどかな田園風景を楽しみながら利用者と一緒に散歩している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵はかかっておらず常時開放されている。チャイムやセンサーなども設置されていない。職員のコーナーから全ての部屋の出入り口が見えるようになっており、利用者の安全確認に配慮している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	食堂には避難経路図や緊急時の通報手順が掲示されており、職員は災害時の避難経路を熟知している。年に2回消防署立会の下に避難訓練を行っている。偶然にも近所に消防署員が数人住んでおられ、災害時の協力を呼びかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表に摂取量を記録し、職員は利用者の状態を把握している。また、毎食後、おやつや入浴後などに水分摂取を心がけ、水分不足にならないよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みんなが集まる食堂兼居間はスペースが広くゆったりとした空間になっており、大きなガラス窓から明るい光が差し込んでいる。また、部屋の片隅には量のスペースもあり、くつろいで過ごせるようになっている。壁には利用者と職員が作った鯉のぼりのちぎり絵の力作が飾られ、季節感が溢れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者の馴染みの物や家族の写真などが置かれており、シンプルではあるが居心地のよい空間になっている。利用者の希望で畳の部屋に模様替えできるようにしており、家庭的な雰囲気が感じられる。</p>		